

学校紹介

School

沖縄県立美来工科高等学校 魅力ある地域連携の取組について

沖縄県立美来工科高等学校長 新屋敷 博史

1. はじめに

本校は、令和3年度より専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・検証「R3～R8研究指定※対象学科 自動車工学科」、令和4年度からは県研究指定キャリアビルドアップ事業（専門高校地域連携推進）「R4～R6」に取り組んだ。

専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・検証事業の目的は、沖縄県内の専門学校4校が各校の専門分野「ビジネス、情報技術、自動車整備、グローバル」に関連する分野の専門高校と連携し、計6年間の一貫した職業教育プログラムを開発・実証することで、沖縄モデルを構築することにある。一方、キャリアビルドアップ事業（専門高校地域連携推進）の目的は、専門高校が地域の関係機関等と連携・協働し「社会に開かれた教育課程」を推進することで、地域産業の魅力発見と地域産業界の担い手となる人材育成を図ることである。

2. 学校紹介

本校は昭和38年、当時の琉球政府中央教育委員会において、本島中部地区における工業技術教育の基幹校として設立が認可され、今年度、創立62周年を迎えた。

昭和39年に琉球政府立コザ高等学校から自動車科125名、電気科122名の生徒を引き継ぎ、新入生240名（自動車科80名、電気科80名、機械科80名）を迎え、琉球政府立中部工

業高校として開校した。その後、昭和40年度に電子コースを設置（以後電子科へ発展）、昭和42年度には土木科が新設された。

平成17年度には校名を中部工業高等学校から美来工科高等学校に変更し、機械システム科、自動車工学科、電子システム科、都市環境科に学科改編するとともに、専門情報に関する学科としてITシステム科とコンピュータデザイン科を新設した。さらに、平成29年度には、都市環境科を土木工学科へ学科改編を行った。

本校は、本島中部地区の工業教育・情報教育の中核となる学校であり、県内の専門高校の中では国公立大学への進学者数がトップの実績を誇り、就職だけでなく進学意欲の高い生徒が多いのが特徴である。

3. 専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・検証（対象学科：自動車工学科）

本事業では、沖縄県内の専門学校が企業と連携し、高等学校のキャリア教育を支援するための実証授業の実施と教材開発を行い、高校生が将来の進路選択に役立つ実践的なキャリア教育を提供することを目的として実施した。具体的な連携授業としては、専門学校パシフィックテクノカレッジ、沖縄トヨタ自動車と連携して実施した。

(1) 連携授業（令和5年度）

① 自動車工学科1年 座学（2コマ）

テーマ：自動車整備士とは（職業理解）
 内容：自動車整備士の仕事、役割、自動車整備をめぐる社会の動き、自動車整備業界の動向

② 自動車科工学科1年 実習（13コマ）

テーマ 車の魅力・楽しさ

内容：

- ・【自動車とは】：実車を活用した車の進化、車の駆動方式の理解
- ・【運転の楽しさ】：シミュレーター、カート
- ・【車、電気の基本／これからの車】：ラジコンを使用した電気自動車の基本理解、実車を活用した自動運転や駐車アシスト等の理解



実習の様子

③ 自動車工学科2年 座学（2コマ）

テーマ：自動車整備の職業意識・必要な能力

内容：【社会的責任を担う自動車整備士】【専門職としての自動車整備士】【自動車整備士の視点】

④ 自動車科工学科2年実習（15コマ）【自動車整備】

内容：予約・受付、車検、故障診断の現場見学【部品共販、L & F（産業車両）】：部品の供給、産業車両の販売・整備の現場見学

【自動車板金】：板金の現場見学・体験

※2年生の「実習」については、沖縄トヨタ自動車株式会社にて実施した。

(2) 連携授業（令和6年度）抜粋

① 自動車工学科3年 座学（1コマ）

テーマ：自動車整備士に必要な資格

内容：【自動車整備士の資格・等級・役職】
 【整備士としての人生設計】

② 自動車科工学科2年 実習（5コマ）

テーマ：自動車整備士に必要な資格【自動車整備士の資格・等級・役職】
 【整備士としての人生設計】

授業の様子



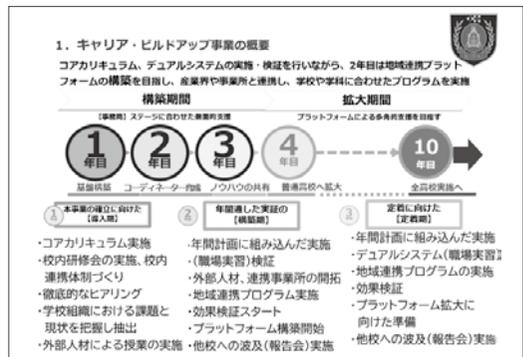
4. 県研究指定「キャリアビルドアップ事業（専門高校地域連携推進研究指定校）」令和4～6年の取組

(1) 事業目的

専門高校が地域の関係機関等と連携・協働し、「社会に開かれた教育課程」を推進することで、地域産業の魅力発見と地域産業界の担い手となる人材育成を図る。

(2) 事業概要

専門高校と地域の関係機関が一体となり（コンソーシアム構築）、学校や地域の実情に応じて連携・協働する体制（プラットフォーム）を構築するため、学校と関係機関等を繋ぐパイプ役としてコーディネーターを研究指定校に配置し「社会に開かれた教育課程」を推進した。



(3) 令和4年度の取組

- ① デュアルシステム研究委員会の設立
- ② コアカリキュラムの作成・実施

・コアカリキュラムとは「働くとは何か、学ぶとは何かを考え自分を見つめる」ことを通して、主体的に学ぶ姿勢を身につけることを目指した共通カリキュラムである。

・先進校視察（県外専門高校5校）、各学科で多くの企業（産業界）から講師を招聘し、産業界人講話を実施した。講話ではクロストーク「人はなぜ働くのか」、自己理解ワーク「自分を知る」、チームビルディング「社会で求められる力」について学んだ。

1
年目

**デュアルシステムと
インターンシップの違い**

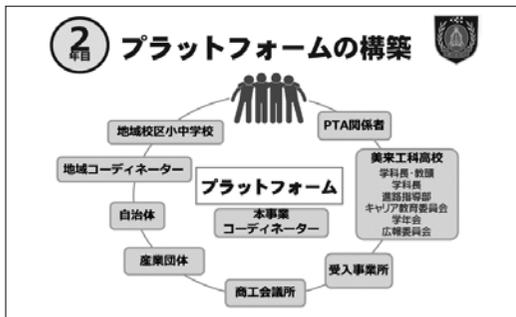
- ・デュアルシステムは、
- ・各学科で学ぶ学習内容を基に地域企業と連携することにより、実践的な社会経験ができるシステムである。
- ・また、評価も伴うもの。
- ・インターンシップは、
- ・様々な職場を体験できるものと認識で区別した。

全ての生徒が対象であるが、
「デュアルシステムは生徒に対して強制は無い」ことを確保

「プラットフォーム」構築へ

(4) 令和5年度（2年目）の具体的な取組

- ① 地域企業・関係団体との関係性づくり及び連携したプラットフォームを構築した。



② 沖縄型デュアルシステムの各学科の取組

機械システム科

2
年目

機械システム科

社会のつながり、専門科目を学ぶ目的を知る機会とした
授業前:工業技術基礎(6単位)の時間の3時間分を行った
実施前、後の学習、振り返りの時間を確保し取り組んだ

- ・施設および上級学校への見学・・・年間・機械加工実演見学・・・12月
- ・プログラム実演・体験・・・9月・インタビュースィップ、安全教育、AED講習・・・1月

- ①県金型技術研究センター
- ③株式会社イメイド
- ⑤首里城修復現場
- ⑦株式会社 海邦ベンダー工業
- ⑨株式会社 沖縄シマヤ
- ⑪株式会社 仲本工業
- ⑬MRO Japan 等

- ②一般社団法人ものづくりネットワーク沖縄
- ④大垣精工株式会社
- ⑥沖縄うるまニューエナジー株式会社
- ⑧琉球ロジスティクス株式会社
- ⑩拓南製織株式会社
- ⑫沖縄職業能力開発大学校

自動車工学科

2
年目

自動車工学科

専修学校による地域産業中核の人材育成事業
専門学校、企業、高校との連携

美東工科高等学校 自動車工学科

職業教育に係る実績や知見、教育ニーズ、専門学校への連携などを提供し、専門学校と連携して一般職業教育プログラムの開発と実施に協力する。

専修学校バシフィックテクニカレッジ

専門分野の職業教育のノウハウや教育リソースを提供し、専修学校と連携して一貫型職業教育プログラムの開発と実施に協力する。

沖縄トヨタ自動車株式会社

実務現場の観点から、専門分野の職業人に求められる専門性や人間力、社会人基礎力等に関する知見や、高校・専門学校の教育に対する要求等を提供し、一貫型職業教育プログラムの開発と実施に協力する。

電子システム科

2
年目

電子システム科

産業人講話・企業講話

職場実習 (希望者)

<科で希望者の選定>

- ・単位保留や懸念のない生徒
- ・勤怠が良好な生徒
- ・講話を聞いて、「業界、職場実習をしたい」という生徒

<職場実習後>

- ・業務日誌の提出
- ・評価にはいれない

①実習生紹介書

②協定書

③守秘義務誓約書

④業務日誌

土木工学科

2
年目

土木工学科

特に2年生の活動報告

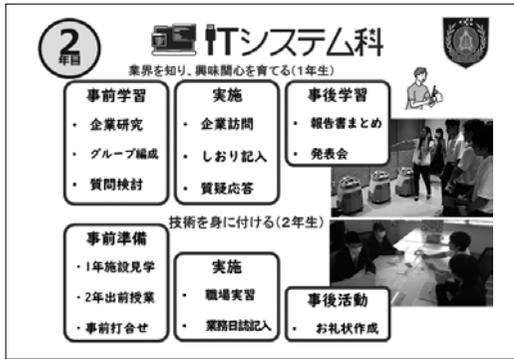
- ◆初の試みで実習項目に現場実習を取り入れた
- ◆4つの企業に受け入れを協力してもらい実施
- ◆年間のスケジュールとして、保険適用にならない4・5月で企業挨拶をし、1つの企業に5週連続で現場実習を行う
- ◆取り組んだ内容・実施工法の発表を行う予定(企業も参加)

まだ未完成の橋梁の上にて

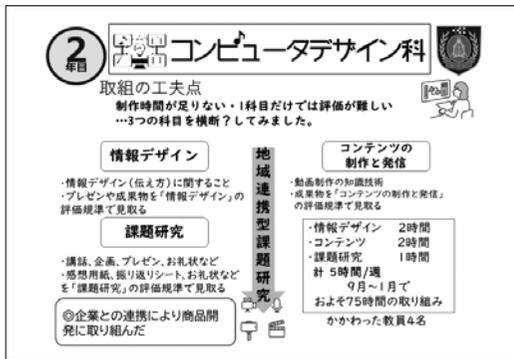
最新の測量方法を学ぶ

幅広く建設業を知り、就職後のミスマッチ解消

IT システム科



コンピュータデザイン科



(5) 令和6年度(3年目)の具体的な取組

① 連携外部の意見・要望の反映

- ・地域連携情報交換会(プラットフォーム)のフィードバックを行った。
- ・美来工科高校・専門高校地域連携推進事業のプラットフォーム参加市町村のうるま市経済産業部が主催した美来工科・学科長と企業との連携懇談会を実施した。
- ・業界が求める人物像に近づける指導・時代に沿った実習内容を検討した。

② 学科間、学年会で取組を共有した共通プログラムの構築

- ・令和6年度より専門学科中心のデュアル研究委員会を学校全体のキャリア教育委員会と合併しMIRAIプロジェクト委員会を設置した。

5. まとめ

本校はこれまでも工業・情報教育の拠点校と

3

1. 外部の意見・要望を反映する

【令和6年度 第1回 美来工科・地域連携プラットフォーム推進情報交換会】

目的: 美来工科高校と地域企業・団体が一堂に会し、地域連携プラットフォームの構築と推進に向けた意見交換と協力体制の確立を図る。

・ 日時: 2024年7月26日(金) 15:00~17:00
・ 場所: 美来工科高校 機械科棟/電気実習室

地域・企業・団体約30社参加人数
60名の方々が美来工科に集まり、今後の地域連携の指針と持続可能な取組み実施に向けた会議。

各学科事、6グループに分かれ、地域連携テーマにそってワークシートを使つての意見交換と課題の洗い出し、課題テーマへの意見発表と共有した。

して地域・産業界と連携・協働し、生徒たちがすべての活動において最後までやりぬく、たくましい実践力と態度、創造性、高い志を育み、自己実現に向けて進路を主体的に選択できる能力と態度の育成に取り組んできた。

令和4年度より地域連携事業を実施してきたことで、学校の更なる活性化に繋がったと考える。具体的な成果として、令和6年度の3年生の進路決定率が、県内専門高校においてもトップクラスとなった。その中でも特筆すべきは、就職内定が例年になく早期に決定したこと、そして、毎年のようにあった就職内定後の辞退者が今年度は皆無であったことである。このことから、今年度の3年生は地域連携推進事業の中で、1年生からのコアカリキュラム、学校全体でのキャリア教育を学年段階で計画的・組織的に実施したことや、企業での職場実習を通して学校で学んだ専門的な知識・技能が実社会でどう活かされているか体験できたことで、生徒一人一人が自分自身の将来について考え、進路を主体的に選択できる能力と態度を育成できたと考える。さらに、今年度の高校入試においては、平成26年度以来に、全学科で定員割れを解消することができたことも、地域連携において、生徒たちの活躍や本校の魅力を地域や企業などへ広く発信できたことが少なからず影響したと考えられる。今後も「社会に開かれた教育課程」を継続的に実践し、魅力ある学校づくりに取り組んでいく。